

インドネシアのバンテン地方にはジャワラと呼ばれる人がたくさんいる。ジャワラとは日本語で言えば「ヤクザ」に相当し、拳術に優れ、気質が粗く、腕っ節が強く、男気を尊ぶ傾向が強い。ジャワラでも大物になると呪力も持つと思われている。暴力をいつでもふるう用意のあることが彼らの強みである。正装は黒の上下に奮力である。こんなタイプの人は世界中のどこにでもいる。しかし、バンテン地方の場合、昔からその数が目立って多く、バンテン州警本部長は、九百万の人口に対して八十五万人のジャワラがいるとまで言った。

一九九八年まで三十二年間続いた開発独裁の鍵は、国家が経済成長実現のために強制的に政治的

地域から読む現代

グローバル化の中で

3

岡本正明

「ヤクザ」と政治

(バンテン州)

京都 6/1(11)

安定を実現することであり、暴力を武器とする連中が野放しでは都合が悪かった。だからこそ、ジャワラたちは国軍と警察を支援するべく組織化された。組織名は「インドネシア・バンテン拳術家・武者連合」。バンテン各地に七十以上ある拳術流派を取り込み、九〇年代半ばには十七万人の

会員数を公称し、バンテン地方以外にも支部を設けた。

連合のトップは七十七歳のハサン・ソヒブ。バ

ンテン最大手の土建会社社長でもある。連合の中核はラウ・グループと呼ばれ、構成員の多くは土建業などのビジネスに進出している。開発独裁の時代には彼は各種の同業者組合を押さえ、地方政界でも顔を利かせていた。

九八年に開発独裁の時代が終わって民主化、分権化が始まると彼の時代となった。バンテン地方が州になると、州議員を脅して金をまき、彼が望



いイスラーム政党の幹部と有名な女優のペアであった。バンテン住民の間にはラウ・グループの権勢ぶりには強い反発があったことから対立候補が勝つ可能性はあった。

そこでラウ・グループは何をしたか？六百万を超える有権者を相手に暴力は有効ではない。金と動員作戦であった。ラウ・グループは州の予算も流用して、対立候補の三十倍に及ぶ約四十億円の選挙資金を投入したと言われる。選挙戦では学生活動家たちを取り込むだけでなく、ジャワラたちも総動員した。その結果、40%対33%という僅差で勝利を収め、再び州の実権を握ることとなった。

この選挙戦の指揮官は年輩いたハサン・ソヒブではなく、豪州帰りの彼の息子であった。選挙戦で勝利することで息子は実力を見せつけ、権力を無事に譲り受けたのである。新知事政権発足後の彼の裏の初仕事は、州政府の要職を「ポスト百三十万円とも言われる額で取り巻きに売ることであった。映画のような事実である。

(京都大東南アジア研究所准教授)



バンテン州知事選の開票作業(2006年11月)

金と暴力で権力の座に

九八年に開発独裁の時代が終わって民主化、分権化が始まると彼の時代となった。バンテン地方が州になると、州議員を脅して金をまき、彼が望

は、清廉なイメージの強



おかもと・まさあき氏
1971年神戸市生まれ。
京都大学大学院修了。
専門は政治学。論文に分権化に伴う暴力集団の政治的台頭など。